

結婚までに付き合った人数は？ 男性5.0人、女性4.5人。 ～『第1回恋愛観調査』より～

株式会社リクルート(本社:東京都千代田区 代表取締役社長 兼 CEO: 柏木 斉)が運営するブライダル総研では、結婚トレンドにかかわる基礎資料として、20代から30代の未婚者2000人、既婚者(婚約中含む)400人を対象に『第1回 恋愛観調査』を首都圏、東海、関西の3地域で実施しました。ここに調査結果の一部をご報告いたします。

① 何人目の交際相手と結婚したか。男性5.0人、女性4.5人。

『第1回 恋愛観調査』によると、既婚者および婚約中に人に「何人目の交際相手と結婚したか(するか)」を聞いたところ、男性の平均は5.0人、女性の平均は4.5人となりました。

これは平均値ですので、もっと多い人もいれば、1人目と結婚した人ももちろんいるということです。

② “恋人”と“結婚相手”の関係性の違いは？ 「犠牲をはらってでも続けられる関係」に最も大きな差。

それでは、“恋人”と“結婚相手”では何が違うのでしょうか。関係性を聞いてみました。

既婚者で結婚相手に対する関係性で最も多かったのは「お互い愛し合っている」98.0%、続いて「一生寄り添い続け、人生を共に(ともに)歩んでいく関係」97.3%でした。

一方未婚者で恋人に対する関係性で、最も多かったのが既婚者と同じく「お互い愛し合っている」で95.7%、続いては「抱きしめたい(抱きしめられたい)」94.3%でした。

既婚者と未婚者を比較してみたところ、最も差が大きかったのは「お互いに犠牲をはらってでも続けられる関係」。既婚者が93.5%である一方、未婚者は70.9%で22.7ポイント差となりました。続いて「一生寄り添い続け、人生を共に(ともに)歩んでいく関係」(既婚者:97.3%、未婚者75.6%、未既婚差21.7ポイント)でした。

一生を寄り添うという誓いが、どんな時でも関係を続けようという覚悟が生まれるのかもしれませんが。その想いになれるかが「恋人」と「結婚相手」の違いのようです。

◆ 出版・印刷物へデータを転載する際には、“リクルート ブライダル総研調べ”と明記いただけますようお願い申し上げます。

【リクルート ブライダル総研】

「ブライダル総研」は、株式会社リクルートのブライダルカンパニーに設置されている調査・研究組織です。結婚や結婚式に関する調査・研究、未来への提言を通じて、ブライダルマーケットの発展に貢献することを目的として活動しています。

「ブライダル総研リサーチニュース」バックナンバー
ブライダルに関する豊富な調査データはこちらをご利用ください

<http://bridal-souken.net/>

■調査名:『第1回恋愛観調査』より

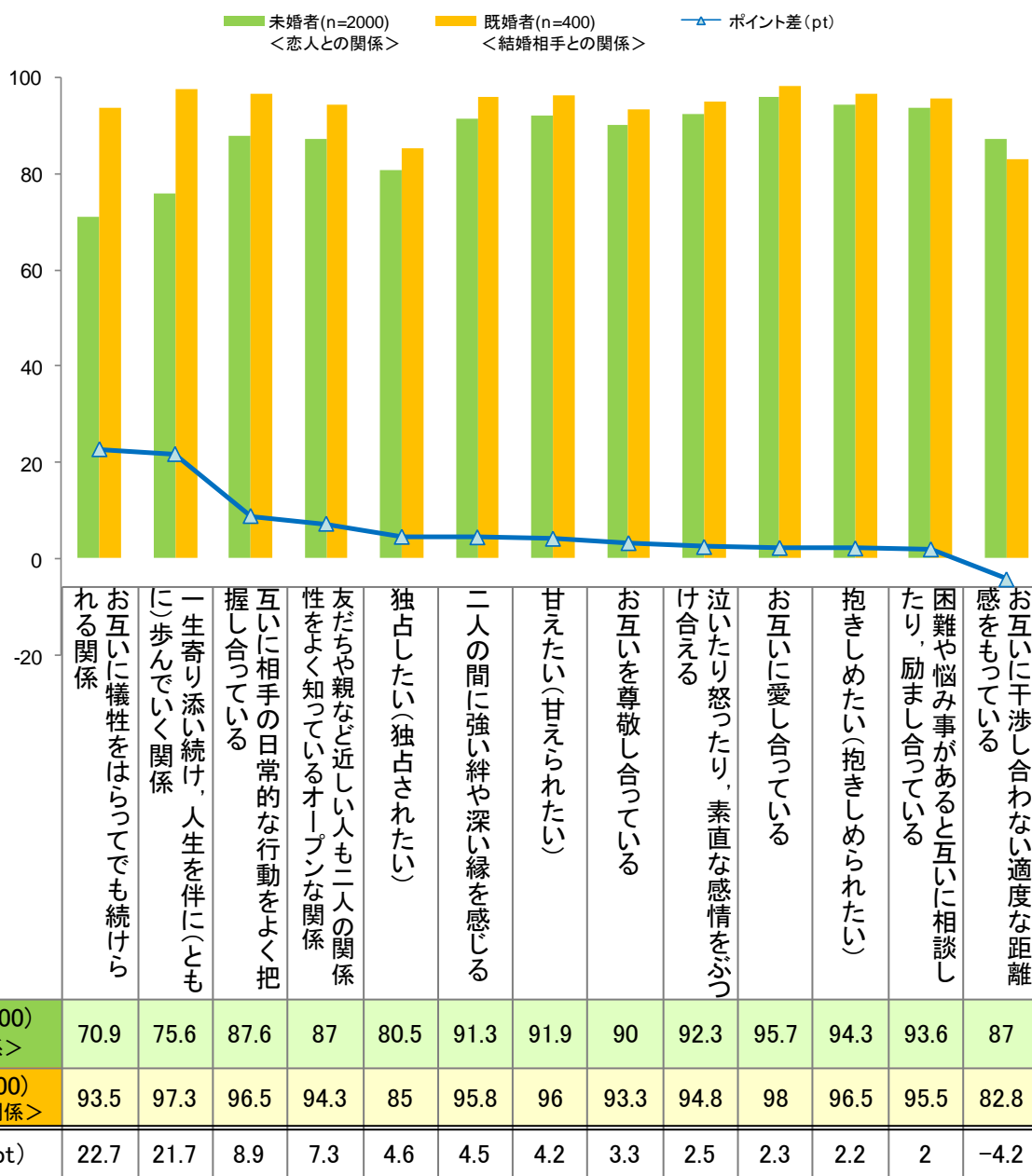
【参考データ】

■何人目の交際相手と結婚したか(既婚者および婚約中の人/単一回答)

(人)

	男性(n=400)	女性(n=400)
平均	4.96	4.49

■“恋人と結婚相手” 関係性の違い (全体/複数回答)



■調査名:『第1回恋愛観調査』より

【調査概要】

【調査方法】 インターネットによるアンケート調査

【調査期間】 2011年9月17日(土)～9月23日(金)

【調査対象】 <未婚者> 首都圏(東京・神奈川・千葉・埼玉)、東海(愛知・岐阜・三重)、関西(大阪・兵庫・京都・奈良・滋賀・和歌山) 在住で20～30代の男女

【集計サンプル数】

<未婚者> 「今現在、結婚していない(結婚はしたことがない)」と回答した 男性1,000人 女性1,000人:合計2,000人※ただし、「婚約中」と回答した人を除く。

<既婚者> 「今現在、結婚している」もしくは「婚約中」と回答した男性200人、女性200人:合計400人。